



4月21日に行われた「第6回埼玉ちゃれんじ企業経営者表彰式」で受賞者の皆さんと記念撮影 左:前列中央 と上田埼玉県知事とともに(右)

「埼玉ちゃれんじ企業経営者表彰」で 埼玉県知事賞を受賞 カーボンの新たな可能性を追求したい

市内に「チャレンヂ」という会社があるのをご存じですか。

カーボン(炭素繊維)

の成形に独自のノウハウを持つ会社で、同社が狭山市に進出したのは、2006年10月のことでした。社長の中村敬佳さんは、独学でこの



明るい工場内で、従業員の方たちが手際よく作業していました

仕事に取り組み、今年「埼玉ちゃれんじ企業経営者表彰」で県知事賞を受賞するなど、業界から注目を集めています。

中村さんが、この仕事に携わるきっかけとなったのは、高校1年生のときに板金でレシーブカーを造っている会社を知ったことからです。

「給料も要らないから、どうしてもこの仕事が出来たいと無理やり頼み込みました」と中村さんは、当時を振り返ります。1970年に20歳で独立。板橋の町工場から出発し、12年後に、戸田市に株式会社チャレンヂを設立してレシーブカーのボディやシヨーカーなどの製造を本格的に始めました。あるとき、カーボンを使用したレーシングカーの速さに衝撃を受けて、カーボンでのボディ造りを決意し、数年後には、ルマンやデイトナの24時間レースで優勝に貢献するなど、モータースポーツ界での栄光の数々は、同社の技

術力の高さを示すものです。バブルが崩壊したときは、市販車のエアロパーツ製作などで乗り切ると、やがて、量産の依頼も増えてきました。それに伴い、工場も手狭になつてきたため、移転先を探していたところ、狭山市が企業誘致に力を入れていて、圏央道に近く立地も優れていたことから、狭山市への移転を決断しました。

今では、スポーツカーを支える床材や新幹線のノーズ(先端部分)、航空機のパーツ、さらに橋の欄干なども手がけるまでになり、その可能性は無限に広がっています。また、4時間かかっていたカーボンの成形を5分で仕上げる新技術の開発にも成功し、量産化のめども立ちました。

「カーボンの魅力は、軽く、強く、しかも腐食しないこととありますが、成形が難しく、量産化が困難なことや高コストが課題となっていました。



(株)チャレンヂ代表取締役社長

たかよし
中村敬佳さん(根岸)

た。量産化も進めませんが、何よりも開発を重視し、さらに新たな製法の確立、コストダウンを目指します」と中村さんは力強く語ります。最後に、取材をしていて気がついたのは、若い社員の方が多いこと。そして、工場を見学中、仕事の最中でも、こんなに「と気持ちの良いあいさつをしてくれたことです。これも、中村さんの会社と仕事に対する愛情が浸透しているからなんだなと感心しました。モータースポーツで培った経験と技術は、社会貢献という形で、私たちの生活に確実に生きています。これからも中村さんのチャレンヂは続きます。

姉妹・友好都市 見てある記

西湖(シーフー) こうしゅう
中華人民共和国杭州市



杭州市 1996年
友好交流都市締結) は、古くから地上の楽園といわれ、マルコ・ポーロが世界で最も美しく華やか



とたたえた都市です。そんな杭州市の中でも西湖は中国国内でも名勝として知られ、市街地の西側に位置していたことから宋代よりこの名で呼ばれ親しまれています。

春夏秋冬や天候にかかわらず、いつ訪れても美しいといわれ、宋代の詩人は、春秋時代の絶世の美女・西施に例え、「淡粧濃抹総て相宜し(薄化粧でも厚化粧でもどんな姿でも素晴らしい)」と詠みました。

人 市民リレー

私の宝物 ...

光と色のハーモニーに魅せられて

仕事で欧州を訪れた際に、光とガラスの色彩が織り成す、その美しく幻想的な世界に出逢ったのが、私がステンドグラス作りを始めるきっかけでした。



堀口文雄さん

仕事を退職してから作り始め(水野在住)て7年がたちますが、イメージを膨らませてデッサンしたものを、ガラスを組み合わせる表現するのはとても難しく、これまで作り出した作品の中でも、納得できるものは数えるほどしかありません。

しかし、新しい作品を生み出そうとする中で、一つのことに集中し、情熱を注ぎ込むことは、日々の生活に潤いと充実感を与えてくれます。



これからの、健康を保ちながら、ステンドグラス作りを楽しんでいきたいと思っています。

手作業で作上げたステンドグラスの窓

手作りで作り上げたステンドグラスの窓



夏のビックイベントは納涼盆踊り大会

梅雨の終わり、天候を心配しながらも盆踊り大会の準備に余念がありません。模擬店の準備、会場の設営など、早朝より総出で汗を流します。試行錯誤の末、準備が整いました。後は天気のみです。西の空が茜色に染まるころ、隣の自治会から軽快な音楽が風に乗って流れてきます。天気も上々、こちらのスピーカーも鳴り始めました。町内のささやかなお祭りも、多くの皆さんの協力をいただき、今では地域のイベントとして定着してきました。このイベントが今年も、さらには来年もと受け継がれることを祈っています。

くがわ自治会

柏原第4区自治会

狭山の史跡

公式モバイルサイトで市内の史跡を巡るコースを多数紹介しています。ぜひご覧ください。

馬頭観音

所在地 青柳226番地付近(丸山稻荷神社)



この馬頭観音は1面6臂の立像で、享保14年(1729)3月に造立されたものです。

この石仏の最大の特徴は尊像の右上にある「鶴」の文字で、「ウハツキユウ」と読み、これを刻むものは市内で1基だけです。この文字は、「鳥八白」の合字とされ、いろいろな意味が考えられています。その一つは、鳥を追い払うゲイ(サギに似た鳥)の変化したもので、この鳥の名を刻むことにより、供物に近づくと鳥を払う意味があるといわれています。